

# アグリいな 第67号



## 自家消費用の放射性物質スクリーニング検査

「アグリいな」では、破壊式放射能測定器と刻まずに測れる非破壊式放射能測定器が設置されており、いろいろな需要に対応しております。

以下に、破壊式放射能測定器と非破壊式放射能測定器の用途をまとめましたので、ぜひご覧いただきご利用下さい。

破壊式測定器	①検査用の野菜は廃棄しても、より確実な検査結果がほしいとき ②トウモロコシなど食べられない部分の多い野菜の検査 ③井戸水などの飲料水の検査（汲み置き水を測定） ④自家消費用作物の栽培土壌の検査（できれば作物とセットにして）
非破壊式測定器	①全量が少なく、検査用を廃棄すると食べる分がなくなるとき ②イチゴ、ブルーベリーなど高価な食材の検査 ③食材を無駄にしないで検査を実施したいとき

検体の種類や測定器の違いによって、いくつかご注意いただきたい点がありますので、詳しくはお問い合わせ下さい。



ご予約・お問い合わせ

0242-85-7137



非破壊式測定器内部

# アグリいなで実施した試験から

【会津農林事務所が実施の“天のつぶの施肥法試験”と三要素試験より】

## 1 試験の目的と方法について

「天のつぶ」は出穂期がやや遅く、生育期間の気象条件で収量や品質等へ影響することがあり、初期生育に影響する基肥の速効性窒素比率や低温年の効果が期待されるリン酸の施用量の違いによる収量等への影響を検討しました。

表1 試験区の構成

No.試験区名	成分量(kg/a) (窒素-リン酸-加里)	備考
① 速効性38%区	10 - 5.7 - 9.4	速効窒素成分38%
② 速効性38%+リン酸増量区	10 - 14 - 9.4	速効窒素成分38%+リン酸増量
③ 速効性21%区	10 - 5.7 - 9.4	速効窒素成分21%
④ 速効性21%+リン酸増量区	10 - 14 - 9.4	速効窒素成分21%+リン酸増量

★窒素成分全体で24%、肥効調節型がグットIBが1.8%、エムートS60が7.1%、エムコート70が10%肥料をベースに速効性の化成肥料で基肥窒素成分を調整した。

## 2 試験結果について

(1) 図1に速効性窒素比率やリン酸増量が穂数及び収量に及ぼす影響について示しました。昨年は生育期間の気温が高かったためか、速効性窒素比率を上げ初期の生育向上を目指した区やリン酸増量区の収量等へプラスの効果は判然としませんでした。

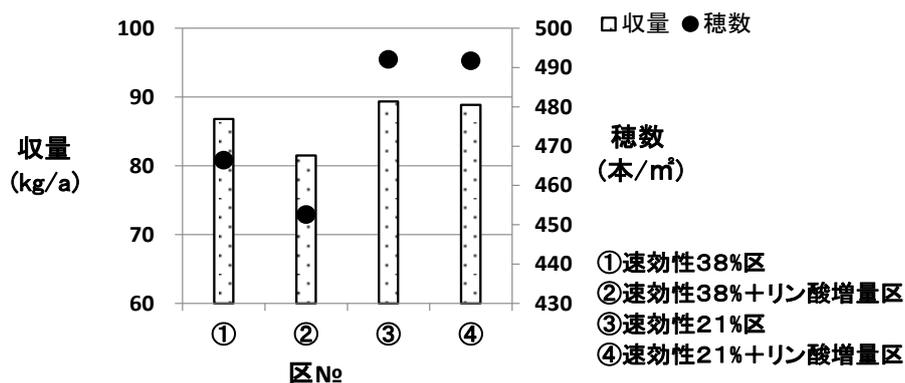


図1 速効性成分比率とリン酸増量の穂数・収量  
(品種 天のつぶ)

(2) 表2には品質及び食味調査の結果を示しました。リン酸増量によりややタンパク質含量が少なくなり、食味値が少し高くなる傾向はありましたが、その差は小さく明確な結果とはなっていませんでした。

表2 品質及び食味値

No.試験区名	品質調査より		食味調査より	
	整粒	未熟粒	食味値	タンパク質含量(%)
① 速効性3.8%区	93.7	5.7	72	6.5
② 速効性3.8%+リン酸増量区	90.8	8.5	74	6.4
③ 速効性2.1%区	90.8	8.2	73	6.5
④ 速効性2.1%+リン酸増量区	90.4	8.5	75	6.3

※品質はサタケ穀粒判定器（SATAKE RGQI20A）、食味値はサタケ食味計（SATAKE RLTA-10B）による調査

(3) これらの結果になった要因をリン酸やカリ成分有無が稲の生育・収量に与える影響を検討している試験から検討してみました。図2には、登熟期間に低温となった平成27年と全期間の気温が高く経過した28年について、それぞれの区の収量を平年値比率で示しました。この結果、平成27年は無リン酸区が平年比83と低くなっています。反対に、平成28年は平年比114と高くなっており、無リン酸の影響が少ない年次と考えられました。このように、リン酸は生育期間の気温など気象条件で収量に対する影響が異なってきます。

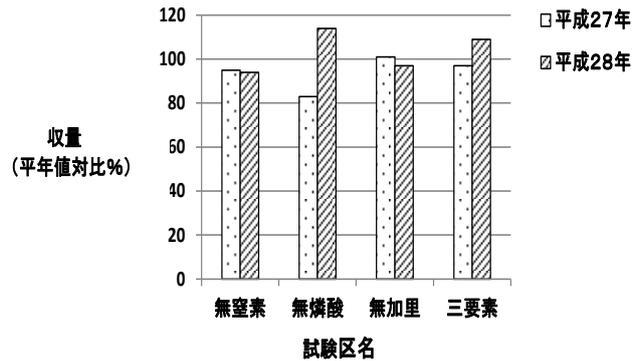


図2 窒素、リン酸、カリ成分が収量に及ぼした影響 (三要素試験より。平年値は平成24～28年度の平均を用いた)

(4) 土壌中の可給態リン酸（植物が利用できる形態として土壌に存在）はJAを中心に調査されており、過去の調査では85%程度が基準量以上となっています。必要以上のリン酸施用量は入りませんが、低温年を考えると土壌分析や栽培暦等を参考に基準量の施用は必要です。

## 本年、アグリいなで実施予定の新規試験

本年、アグリいなでは以下の新規試験を予定しています。

- 1 水稻のコスト低減に向けた試験  
密苗の適応性、全量育苗箱施肥栽培における箱数の削減法
- 2 温暖化に適応する水稻栽培技術  
密苗と稚苗と中苗の適応性、晩生品種の検討
- 3 里山のつぶの多収性を活かした掛け米生産技術(農業総合センター実施)

# お知らせ



## 「クマ」に注意！

春は、「クマ」が冬眠から目覚め、食べ物を求めて活発に行動する時期です。「クマ」による被害防止のため、山菜採りなどで山に入る場合は次の事項にご注意下さい。

○出没状況を確認して危険な場所には近づかないで下さい。  
(鳥獣害対策メールマガジンで情報提供しますので、町農林課にお申込み下さい)

○熊鈴、ラジオなど大きな音を出して自分の存在を知らせて下さい。

○子グマを見たらそっと立ち去って下さい。

※農作物などに被害があった場合は、町農林課までご連絡下さい。

○お問い合わせ先：猪苗代町農林課 62-2116



## 春の農作業安全運動実施中です！！

4月1日～5月31日まで春の農作業安全運動重点推進期間になっています。本年は降雪量が多かったため、春作業の遅れが心配されます。アメダスデータから過去の融雪日（積雪0cmを融雪としました）が遅い年次と本年の類似年を表3と4に示しました。気象庁の1ヶ月予報では気温の高い予報が出ていますので、標高の高い地帯でも一斉に雪解けが進むと考えられます。焦らず基本操作で農作業を行ってください。急いで農作業を行うと事故の要因となります。農作業中の事故を防ぐために、農作業時は帽子やヘルメットを着用し、作業服は袖口を閉じるなど、服装に気を付けましょう。

また、トラクターに乗るときは、ほ場や農道の路肩に注意するほか、公道を走行する際は、一般車両・歩行者にも注意するようにしましょう。一般車両によく認識されるように、後続車に分かりやすい位置に反射板を取り付けることも有効です。

表3 融雪の遅い年次

年次	融雪日 (月日)
昭和56年	4月13日
昭和59年	4月10日
平成23年	4月15日
平成24年	4月18日

注)融雪は積雪深0cmとなった日とした。  
(1980～2016年 アメダス猪苗代より)

表4 本年と類似した積雪年の融雪日

年次	融雪日 (月日)
昭和55年	4月3日
平成17年	4月2日
平成18年	4月5日
平成20年	4月3日
平成22年	4月5日
本年	4月4日

## アグリいな

(猪苗代町地域農業活性化センター)

猪苗代町坂下4527番地

TEL 0242-85-7816

(旧福島県農業試験場冷害試験地) FAX 0242-85-7836

開所日 平日 8:30～17:00

Mail [agriina@oregano.ocn.ne.jp](mailto:agriina@oregano.ocn.ne.jp)